

## 自然観察さんぽのおすすめ（エゴノキ②）

5月に、林縁（林のへり）でかわいいお星さまのような白い花が沢山ぶら下がって咲いていたエゴノキ。



さあ、エゴノキ自然観察の次のステップへ・・・

これは駅前や新しいマンションの植え込みでは見つからないと思いますので、林の周辺で探してみてください。

（東部公民館の押しボタン式信号を渡ったところのミラーすぐそばのエゴノキでも観察できます、下枝を切られたので、今は少し観察しにくいかもしれません。）

葉っぱに直径1センチより小さいくらいの丸い穴が沢山あいているのを見つけましょう。



誰が開けた穴だと思いますか？きっと誰かの食べ跡ですね。  
小さな穴ですから、あまり大きな生き物ではなさそうですね。

穴が見つかったら、その周りに葉っぱがクルクルと丸められてぶら下がっているものを探しましょう。



このような葉を巻いたものが、切り落とされていることもあります。江戸時代公言するのがはばかれる恋文や密告などを巻紙に書いてわざとわかるように落としたのが『落とし文』。エゴノキのコレは切り落とされずにぶら下がっているタイプですが、鳥のカッコウが繁殖のためにやってくる頃に見られることから『カッコウの落とし文』と呼ばれたりするようです。

このエゴノキの葉を食べたのも、巻いたのも小さな虫です。

エゴノキ専門でツルのように首の長い(メスはあまり長くないけれど)オトシブミを作る「エゴツルクビオトシブミ」と言う小さな甲虫。ホントに小さいですが、食痕やオトシブミがたくさん見つかった場所なら、本人たちも見つけることができるかもしれません。



(写真は雄)

交尾を済ませたメスは自分の体よりずっと大きな葉に切れ目を入れて、時間をかけて巻き、途中で1つ卵を産み、また巻いて最後にほどけないようにちゃんと折り込みます。

産み付けられた卵からかえった幼虫は、安全な巻かれた葉のゆりかごの中で、その葉を食べて育つのです。